



発行：豊町東町会 編集：事務局広報部
お問合せ 豊町ふるさと会館 Tel & Fax 04-7169-1101

今号のご案内

- ▶ 消費トラブル防止に取り組む
- ▶ 防災研修と消防訓練
- ▶ 餅つき大会の報告
- ▶ 水戸街道物語 第7回

消費トラブルを防ごう

地域で啓発活動 溝田さん



“オレオレ詐欺”、インターネットの悪質商法が毎日のように報じられています。消費トラブルを未然に防ぐために、地域で地道に啓発活動をしているのが「消費生活コーディネーター」です。私たちの地域を担当する溝田節子さんにお話を伺い、被害の防止について考えてみました。

●消費者とセンターの橋渡し役

消費生活コーディネーター（以下コーディネーターと略）は、柏市長の委嘱を受け、消費生活センターに寄せられるクレームなどの情報を地域の人に伝え、地域の人からの情報をセンターに届けるなど、トラブルの防止や解決のための橋渡し役。消費生活センターは全国にあります。コーディネーターは柏市独自のものです。溝田さんは富里地域（豊町東町会など7町会で構成）という広い地域を一人で担当しています。年に10回のセンター主催の研修会で専門家についてクーリングオフなど消費者問題を勉強し、センターに寄せられた情報を地域の人に伝えるのが役目。

●サロンなどで高齢者に伝える



「電話で詐欺などの被害に合うのは高齢者が多いため、溝田さんは、高齢者が集まるサロン（地域に5サロン）

を訪問して、見守り情報や警察からの被害情報、注意事項などを出席者に伝えていきます。

柏市の平成30年度の「電話で詐欺」は100件、被害額1億5000万円。詐欺の手口は、現金を振り込ませる手口から、親族、銀行員、市役所、警察官を名乗り、キャッシュカードをだましとる手口が主流です。

銀行協会を名乗り、「年号が代わるので、キャッシュカードを代える必要がある」と返信用の封筒まで送ってきたケースもありました。

溝田さんは、こういう情報を伝えるとともに、警察や消費生活センターが呼び掛けている注意事項を繰り返して伝えていきます。

- ・ 電話でお金の話は詐欺
- ・ 怪しい電話に出ない。犯人と話さない
- ・ 電話を留守番設定し、警告メッセージを流す
- ・ 電話を受けたら家族や周りの人と相談する

●「どんぐり」にコラム掲載

各サロンに出席する人は10～20人。来られない人にどう情報を伝えていくかが、これからの課題だと溝田さんはいいます。溝田さんはふると協議会の広報誌「どんぐり」（偶数月発行）に毎回、最新の情報を掲載しています。「ぜひ読んでください」と溝田さん。

犯人はいろいろな知恵を絞り、いま話題になっているイベントや事象をネタに次々と劇場型の詐欺を行っているようです。注意してください。例えば、開催が来年に迫った「東京オリンピックの入場券を買わないか？」と持ち掛けてくる詐欺など。むろんお金を振り込んだら、あとは電話も通じなくなり、詐欺とわかりません。このほか5月1日から代わる元号も詐欺の材料にされます。「年号が代わる。天皇陛下のアルバムを8万円のところ3万8000円で売る」といった手口もこれから多くなると思われます。

「このような電話を受けたら、自分一人で考えず早めに消費生活センターなどに相談してください」と溝田さんは話しています。

● くりの木幼稚園が認定こども園に

保育・教育、4月からスタート



くりの木の幼稚園（岩崎雅俊園長）が保育と教育を連携させた「認定こども園くりの木の幼稚園」に生まれ変わり、新たに1、2歳児も受け入れて、4月から保育・教育一体の園としてスタートします。

こども園は待機児童の解消、働くお母さんの支援、教育と保育の一体化などをめざし政府が進める子育て支援政策の一環です。柏市内では35の幼稚園中、15園がこども園になります。

同園では調理室の新設をはじめ園舎がすべて新しくなり、園児たちは木の香漂う園舎で毎日を過ごしています。

岩崎園長は「開園以来の『たくましく



生きる、みんなと生きる、自然とともに生きる』の三本の柱を基に、一貫性のある保育と教育に取り組んでゆきます」と話しています。

の深さ10センチでもかかなり力を要し、30センチでは20代の重田さんもやると開けられるといいう圧力に、みんなびっくり。

暴風雨の体験では女性も含め11人が挑戦。レイアウトに長ぐつ、フードにマスクで身を固め、風速30メートルの暴風と強風を。バーにつかまっついても体が飛ばされそうな風圧、水圧のすごさに、見学する人たちも脅威を感じた様子。「ゆれ」では阪神淡路大震災と同じレベルを。「煙の中を脱出」では、建物の構造（非常口の指示など）を確かめ、毒性の煙を吸わないように落ち着いて行動することなどを学びました。



初めての体験でしたという女性性は「災害のすごさ、怖さを実感しました。この経験を災害の備えに役立てたい」と話していました。



● 本所防災館で災害を体験

3区が日帰りバス研修



3区は2月26日に市のバスを利用しての防災研修を行い、21人が参加しました。柏市防災安全課の重田兼吾さんも同行。「柏市でマグニチュード6.9の直下地震が起これば、死者は128人、市民の20%は非難を余儀なくされる」という想定調査の結果の説明などを“車内研修”。

本所防災館は東京スカイツリーも間近の墨田区にある「防災教育センター」。4つの災害体験をしました。

都市型の水害で地下に浸水すると、水圧で部屋のドアや車のドアが開きにくくなります。水

● “震度7”の体験や119番通報

ふるさと会館で消防訓練

1月26日、豊町東町会、西町会から約40人が参加して実施。東部消防署員7人の指導で、まず起震車で「震度7」「震度5」を



体験。訓練とわかっていても、みなさん揺れの怖さを実感した様子。水消火器での消火訓練には、小さな子供さんも「火事だ」と大きな声をあげて挑戦。119番通報では「実際には、自分の住所も電話番号もわからなくなってしまうがち。訓練を重ねて備えてください」とのアドバイスが。救急隊員が到着するまで平均9分かるとか。AEDのキットを使っているの基本的な講習もありました。



終わって、アルファ米をお湯で戻す実演。町会婦人部手づくりのカレーではおはなを試食。「非常食でも味はなかなか」と参加した人たちに好評でした。



盛り上がった餅つき大会

今回から豊小全児童の家庭に案内



恒例の新春餅つき大会が1月13日、豊小学校校庭で開かれました。できのよかった皆さんのために、豊小学校の親子に楽しんでもらおうと、今回から豊小学校の全児童の家庭にお知らせをしたためか、参加した人も例年より多かったです。

つきたてのお餅や熱々の豚汁を配るテントには長い行列が。高橋篤さんの協力による伝統のしご乗りの披露や、子供会の柏元気太鼓の演奏、だれでも自由にたたくドラムサークルに加え、今年は新しいイベントの“よさこい”も



加わって、楽しさいっぱいの大会となりました。



「空き巣ゼロ110日」を達成

豊町東町会が受賞



昨年未行われた柏市の「年末年始特別警戒取締まり出動式」で、「空き巣ゼロ110日キャンペーン」の達成町会が表彰されました。富里地域（豊町東町会など7町会で構成）では町会が受賞。

町会では毎月1回の町内防犯パトロールを行っているほか、4つの区で毎年柏市防犯安全課、柏警察署の協力で防犯診断を実施しています。自分の住む町の防犯に弱い点、模範となる点などをチェックすることで、住民の防犯意識が高まっていると思われま

す。今年度は住んでいる人の了解を得て、敷地内もチェック。表通りから離れたガラス戸の施錠の二重化といった、空き巣を防止する指導を受けるなど、一歩進んだ防犯対策を進めています。



地域の活動に参加しませんか

●町会事務局スタッフを募集

町会では住みよい町、安全な町をめざしてさまざまな活動を行っています。餅つき大会、夏まつりなど季節のイベント、防犯パトロール、児童の見守り、防犯診断・防災センターでの研修や防災訓練、AED講習会、町会広報誌やホームページの制作・管理、ふるさと会館管理など多岐にわたります。

会員約2000世帯と規模の大きい町会のため、これらの活動を進めるための人材が不足です。活動をお手伝いしていただけるスタッフ（ボランティア）を募集しています。常任、非常任は問いません。「1年に数回ぐらいなら」「出られる時だけでいいのなら」という方も大歓迎。部門によっては、例えば広報希望の方なら、全くの初心者でも取材の仕方、原稿の書き方、パソコンでの編集方法などをお教えします。興味のあ

る分野で、またご自分に合わせたペースで、たくさんの方の参加をお待ちします。

＜総務＞

町会業務全般にわたる庶務

＜防犯交通安全部＞

見守り活動、防犯パトロールなど

＜環境整備部＞

防犯灯管理や町会備品、倉庫の管理

＜広報部＞

町会広報誌、発行物やホームページの制作・管理

＜ふるさと会館の管理人補佐＞

月・水・金曜日の午前中

お問い合わせは豊町東町会（豊町ふるさと会館内）
電話 04(7169)-1101（火・木・土曜日の午前中）



①街道を旅する (2)

●光圀公が妖怪を退治？



今回は小菅から亀戸まで。高層マンションを過ぎわせる東京拘置所を過ぎ放水路の開通で途切れた旧水戸街道がまた始まります。相変わらず道幅は狭く、商店が点在する街道を少し歩けば綾瀬川にかかる水戸橋。綾瀬川は埼玉県の伊奈町を源とし、小菅を通って中川に合流する延長約 30km の川。光圀公が妖怪を退治したという伝説のある水戸橋はもろろん当時のものではなく、橋を支えていた岸壁の一部を保存し、碑として展示されています。

広重の「名所江戸百景」で綾瀬川の筏風景が描かれています。現代の水戸橋を渡ると、右手に小菅神社。境内には妖怪を頂きに刻んだ石の塚もありました。



●上水を振り分けた水門

街道に戻り、先へ進めば左手に蓮昌寺。寛永年間、三代將軍家光が鷹狩りのさい立ち寄り、境内の蓮の花が見事だったので蓮昌寺と称するようになつたといい伝えも。



少し歩いて「川の手通り」というしやれた名前前の道路と交差します。かつてこの角に、葛西用水から流れる水を旧上千葉方面と小菅方面に振り分ける「水門」(みずもん)があつたそうです。道路を渡れば「立場(たてば)跡」の小さな石標。人足や馬の中継をしたり、旅人がしばしの休息をする場所だったのでしよう。

●なんで大きく曲がるの？

この先、「旧水戸街道」の道標のあるあたりから道路は大きくカーブして J R 常磐線の方に近づきます。このあたり「大曲がり」と呼ばれますが、探索メンバーから「こんなに道が曲がるわけは？」



という疑問の声が。土地の人に聞いても“正解”はなし。

亀有駅に近い繁華街に「曳舟親水公園」があります。かつて街道と交差するように曳舟川が流れていたのですが、平成元年に埋め立てられ、街路樹を植えて道路となりました。ここにあった橋の名は「曳舟古上水橋」と石標に刻まれており、かつては上水の流れる川だとわかります。

●実際に舟を引いていた



“曳舟”の名の通り、川の両岸に舟を引く道路があり、遊客を乗せた舟を男たちが縄で引いていたのです。この様子も広重は絵に描いています。亀有と四ツ木間を往復する、なんともまぶりした風景も、明治 10 年代にはなくなりました。

公園の少し先に「亀有一里塚跡」の石碑があります。江戸時代にはかなり大きな塚があつたといわれますが、明治に入ってから取り払われましした。日本橋から三里、千住から一里。

●黄門さまも見守る

黄門さまといえばテレビドラマでおなじみ。一里塚碑に並んで助さん、格さんを従えた黄門さま一行の立像が建っており、通り行く現代の人たちを見守っています。



(つづく)

(街道探検の詳細は、町会ホームページをご覧ください)

